

令和8年度第1回新型インフルエンザ等対策行動計画部会 議事録

1 日時 令和8年7月22日（水） 18時30分～19時00分

2 開催方法 Microsoft Teams によるオンライン開催

3 出席者

【委員】（7名出席）

オンライン：岡部信彦委員、金井忠男委員、君塚善文委員、澤登智子委員、竹田晋浩委員、光武耕太郎委員、池田一義委員

【事務局】縄田保健医療部長、本多保健医療部参事兼衛生研究所長、山口医療政策局長、得津保健医療部参事兼感染症対策幹
関口感染症対策課長及び担当者

【傍聴者】一般の傍聴希望者なし

4 議題

（1）令和8年度のスケジュールについて

（2）市町村行動計画の改定状況について

（3）自宅療養者等への健康観察・生活支援に係る市町村連携について

（4）県行動計画に係る取組の進捗状況について

5 内容

資料に基づき事務局より説明した。

【主な意見】

議題（３）自宅療養者等への健康観察・生活支援に係る市町村連携について

- 保健所設置市とは覚書を結ばないとのことだが、保健所設置市とその他の市の間できめ細かな生活支援のレベルに差が生じることは望ましくない。生活支援を行う際の実施内容について、保健所設置市と県との間で十分に共有し、県全体として対応の平準化を図っていただきたい。
- 健康観察等は、感染症法上は県の業務である。市町村は「必要に応じて」協力するものであるため、覚書等の資料を作成する際には、法に則した表現を用いたほうがよい。
- 病気に関する事項については、どうしても個人情報に関わる部分が生じるため、その取扱いをどのようにするかは重要な課題だと思う。その点について、覚書を通じて平時から関係者間で十分に協議しておくことが大切ではないかと考える。一方で、個人情報の保護を重視するあまり、情報を過度に限定してしまうと、必要な支援や対応が円滑に行えなくなるおそれもある。個人情報の適切な保護と、感染症対応に必要な情報共有とのバランスをどのように確保するかについては、連携協議会においても議論されるのではないかと考えている。

議題（４）県行動計画に係る取組の進捗状況について

- 新型コロナウイルス感染症対応では、県庁や保健所に非常に大きな負担がかかっていた。医療機関側も DX を活用してより円滑に業務を進めることができれば、お互いの負担を軽減できるのではないかと強く感じていた。そうした仕組みづくりは、患者やその家族のためにもなるので、積極的に進めていただくことが重要ではないかと考えている。
- DX システム構築の最初のモデルは結核ということだが、結核はスローペースな病気なので、新興感染症の対応にもこのシステムをベースにしたものを横展開するのであれば、迅速な対応にも活用できるような機能や仕組みを組み込んでいく必要があるのではないかと感じた。